

ちゃどう 茶道のてびき

ちゃどう まな たの
1. 茶道を学ぶよさと楽しみ

ちゃどう たの かた
2. 茶道の楽しみ方

どうぐ
3. 道具について

ちゃどう れきし ちゃ
4. 茶道の歴史-お茶のはじまり-



1. 茶道を学ぶよさと楽しみ

茶道を学ぶと、どんないい事が待っているか考えてみよう。

抹茶が味わえる

最初は苦いと思っても、
いつの間にか好きに
なっている。おいしいよ。

礼儀正しい子になる

挨拶やおじぎの仕方など
礼儀作法が身につくから、
ふだんの生活でほめられるよ。

物を丁寧に扱える

茶道では割れやすい
茶碗を中心に扱います。
物を大切に扱う心を
学べるよ。

季節ごとのお菓子が いただける

抹茶と一緒に季節に応じた
お菓子がいただけます。
いろいろな種類のお菓子に
出会えるよ。

まわりの人に優しくなれる

「おいしい抹茶を
差しあげたい」と思う心を
持てます。友達の事を
大切にする気持ちが
ふくらみます。

日本文化を学べる

お茶は 1300 年前から
あります。
茶道を通して昔から大事に
してきた日本人の心や
歴史を学べるよ。

美しく、カッコよくなる

茶道では上手な座り方や
自然な歩き方、美しい物の
取り方などを学びます。
歩き方や座り方が美しく、
カッコよくなるよ。

外国の人と交流できる

茶道は日本を代表する
文化のひとつです。
自分の国を外国の人に
自信を持って紹介できるよ。

だいにほんちゃどうがっかい
(大日本茶道学会は、特に
点前の所作が美しいよ)

茶道を知ると

楽しい事がたくさん

待っています。



2. 茶道の楽しみ方



— 茶道を学ぶ時の注意 —

1. 先生の話をよく聞きましょう。
2. 室内では走らないようにしましょう。
3. 道具は大切に扱きましょう。
4. おしゃべりをしないようにしましょう。
5. わからないことがあったら先生に聞きましょう。
以上を守って楽しみましょう。

ふだんの生活の中での茶道の楽しみ方を見つけよう。



友達が来た時に
抹茶を点ててあげよう。
友達と一緒に、抹茶を
点ててみよう。



家族や
大好きな人に
抹茶を点てて
あげよう。
きっと喜んで
もらえるよ。



どんな道具・お菓子・茶会・歴史が
あるのか調べてみよう。
きっと新しい発見があるよ。

茶道で習ったおじぎや
挨拶をやってみよう。



3. 道具について

まっちゃ た とし つか
抹茶を点てる時に使うのは・・・

どうぐ つか
道具を使って
おいしい抹茶を点ててみよう！



茶碗(ちゃわん)

まっちゃ の うつわ
抹茶を飲む器



茶罐(ちゃき)

まっちゃ どうぐ
抹茶を入れる道具



茶筴(ちゃせん)

まっちゃ た どうぐ
抹茶を点てる道具



茶杓(ちゃしゃく)

まっちゃ ちゃわん どうぐ
抹茶を茶碗に入れる道具

この形を棗(なつめ) 竹でできています
と言います

ほか どうぐ つか かんが
その他にも、こんな道具を使うよ。(どんなときに使うのか 考えてみよう！)



建水(けんすい)



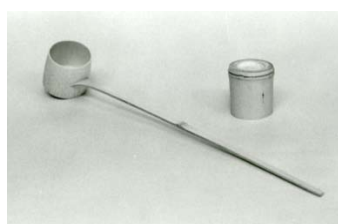
茶巾(ちゃしん)



水指(みずさし)



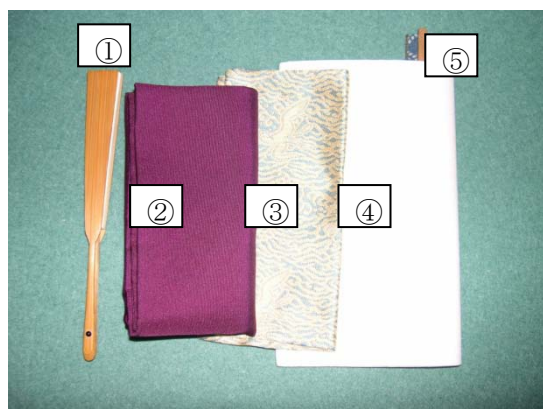
風炉(ふろ)・釜(かま)



柄杓(ひしゃく)・蓋置(ふたおき)



はこ とし
運ぶ時は
こんなふう
に組むよ



ちゃどう けいこ つか も もの
— 茶道のお稽古で使う持ち物 —

- ① 扇子(せんす)…挨拶をする時に使います。
- ② 帛紗(ふくさ)…道具を拭く時に使います。
- ③ 古帛紗(こぶくさ)…茶碗を運ぶ時に使います。
- ④ 懐紙(かいし)…お菓子をのせます。
- ⑤ 菓子切り(かしきり)…お菓子を切り食べる時に使います。

4. 茶道の歴史 - お茶のはじまり -

お茶を飲む風習が日本に伝えられたのは奈良時代、中国から伝えられたと言われています。日本から中国へ勉強に行った人や、中国から日本へ来たお坊さんによって伝えられました。

伝えられたころ、お茶は中国から輸入する高価なものであったので、身分の高い人やお坊さんだけが飲む特別な飲み物でした。しかし、平安時代のお坊さんが中国から、お茶の種や茶器を持ち帰ると、日本でもお茶の葉が育てられ、広く飲まれるようになりました。また、鎌倉時代には、お茶が、どんな病気にも効く薬と言われ、将軍が飲んでいたのでから武士の間にもお茶を飲む風習が広まりました。



お茶が広まったころ、お茶を楽しむことは、ぜいたくで遊びのひとつとして考えられていました。たくさんの人を招待して、豪華な食事やみごとな道具でもてなす茶会というものが開かれました。その後しだいに、ぜいたくな茶会はおこなわれなくなりました。かわりに、お客さまを少ない道具でいねいにもてなす茶会が開かれるようになりました。そして武士だけではなく、商人や町の人にも広まりました。

このていねいにもてなす茶会を始めたのが、村田珠光という人で、弟子の武野紹鷗は、ぜいたくではないけれど、心のこもった、おもてなしをするという「わび茶」を始めました。そして、わび茶の心を継いだのが、武野紹鷗の弟子の千利休という人です。千利休は、わび茶を今の「茶道」の形にしました。

茶道は江戸時代には武士や町の人にも習いごととして広まり、作法の違う茶道をする「流派」もたくさんできました。

しかし、明治時代になり、西洋の文化が流行すると、日本人は茶道や日本の文化を大切にしなくなりました。そこで、日本の文化が、日本人の心から離れはじめていったことに心を痛めた田中仙樵先生は、茶道を通じて日本人に日本の文化を、もう一度見てもらおうと考え、「大日本茶道学会」を創立しました。そして、いろいろな流派の人たちと交流をして、茶道の歴史や道具のこと、お庭や掛け軸など、日本の昔の人たちが作りあげた文化を、茶道を通して勉強ができる場所を作りました。そして茶道をやったことがある人でも、やったことがない人でも、抹茶を味わい、楽しむことができるようにしました。大日本茶道学会ではくちでしか伝えられてこなかった茶道の作法を、写真つきの本にして紹介しているので、わかりやすく、誰にでも学ぶことができます。



本を見ながら予習・復習もできるので、早くじょうずになります。

茶道では、お客さまに一服のお茶をさしあげ、もてなすひとときの交わりを大切にします。同じことを二度と繰り返すことができないその時間を、お客さまに楽しんでいただくために、いろいろなことを学ぶのが茶道なのです。





大日本茶道学会

JAPAN ASSOCIATION OF TEA CEREMONY

公益財団法人 三徳庵

〒160-0017 東京都新宿区左門町 20

TEL.03(5379)0753 FAX.03(3351)2762

<http://www.santokuan.or.jp/>

平成 24 年 6 月 18 日初版発行